平成31年１月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第653号

林業福島

No. 653

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

1
2019

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■林　業　の　プ　ロ

情熱を胸に、挑戦を続ける

福島県知事
内　堀　雅　雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私は、昨年十月の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様の御支持を頂き、引き続き県政を担わせていただくことになりました。皆様から伺った様々な思いを自分の中心に据え、福島の未来を切り拓くため、これからも全力で取り組んでまいります。

未曽有の複合災害からの復興と急速な人口減少に対応するための地方創生という、困難な課題に真正面から取り組むためには、常に危機意識を持って、挑戦を更に進化させなくてはなりません。

まず、避難地域の復興・再生につきましては、被災者の生活再建や生業の再生、廃炉・汚染水対策、医療・介護提供体制の構築、学校の再開、公共交通ネットワークの構築、さらには鳥獣被害対策など、安心して帰れる環境づくりを進めてまいります。

併せて、福島イノベーション・コースト構想に地元企業等の幅広い参加を頂きながら具体化を更に進め、再生可能エネルギーやロボットを始めとする新産業の創出・集積や農林水産業の再生など、浜通り地域の産業基盤の回復にしっかりと取り組み、商工業を始めとした既存産業の振興につきましても、人材の育成や確保を始め、産業の足腰を強化するための支援を行ってまいります。

次に、人口減少対策につきましては、定住・二地域居住や雇用の場の創出を進めるとともに、安心して結婚・出産・子育てができる環境の充実に向け、十八歳以下の医療費無料化の継続や待機児童対策、教育環境の整備など、総合的な施策を講じてまいります。

また、医療・福祉・介護の人材確保・育成や全国に誇れる健康長寿県を目指す取組を引き続き積極的に進めてまいります。

二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにおいては、選手村等への県産食材提供を目指す農林水産物のＧＡＰ認証取得や、大会で活用を目指す再生可能エネルギー由来の水素を製造する拠点整備を進めるとともに、これまでの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島の姿を国内外に広く発信できるよう、関係の方々と力を合わせて準備を進めてまいります。

県民の皆様、そして福島を応援してくださる全ての方々と「共働」しながら、挑戦を続け、生まれて良かった、住んで良かった、来て良かった、と思っていただける県づくりを進めてまいりますので、今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《もくじ》

とびら
情熱を胸に、挑戦を続ける
　福島県知事　内　堀　雅　雄……1
福島大学農学群食農学類が開設……2
新春特集
　第43回福島県林業祭で表彰された方が
　新年の抱負を語る……3～4
第55回全国林材業労働災害防止大会in福島…5
第３回福島県きのこ料理コンクールを開催…6
高校生の伐木等業務特別教育を支援……7
普及指導員通信……8
森林管理署メモ……9
公社だより……10
木に触れて豊かな心を育む「木育」⑩……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

福島大学農学群食農学類が開設

福島大学食農学類準備室　教授　金　子　信　博

福島大学の新しい学類

福島大学は、二〇一九年四月から農学群食農学類という新しい教育研究組織を開設する。教員三八名、学生一〇〇名（一学年）の小さな組織であるが、震災から八年が経過するこの時期に、福島に新しい農学系の組織を作ることには大きな意義がある。福島県は、全国有数な農林業県であるにもかかわらず、これまで県内に大学農学部がなかった。東日本大震災をきっかけに、福島大学に新たに農学系学部を作ろうという機運が高まり、県内や学内の関係者の努力の末、今春の開設となった。

食農学類とは

農業はその多くが食品を生産する産業であり、消費者は食の質や安全性を通して生産にも大きな関心を持つようになってきた。食農学類という名称は生産だけでなく、食品の加工から販売までを網羅する安心安全な食料生産を目指している。食農学類では、農学だけでなく、食品科学も充実させ、環境、農作物の生産から食品の加工や販売までフードチェーン全体を通して捉えることとし、食品科学、農業生産学、生産環境学、そして農業経営学の四コースを設けている。

森林分野

生産環境学コースに、森林科学、森林育成学、森林保護学、そして森林利用学の他に、里山管理論を担当する教員が所属する。このうち、本年四月には三名の教員が、そして二〇二〇年四月にはすべての教員が着任する。森林に関する一つのコースを作るほどの教員数を確保することはできなかったが、森林・林学に関する専門教育を提供する体制ができた。さらに、コースには水利工学、リモートセンシングやスマート農業の教員もいる。森林におけるリモートセンシングや今後、発展が望まれるスマート林業にもコース全体で対応する予定である。

小さな大学の小さな森林分野であるため、新たに演習林を設けることはせず、教育のために他大学の演習林を利用するとともに、県内の諸機関や林業関係経営体等の協力を得て、森林の管理や利用に関する最新の実習を提供する予定である。

福島県の森林・林業と食農学類

福島第一原子力発電所事故による放射性物質は、農地だけでなく、森林もひどく汚染した。農地と違って森林は面積が広く、住民への被曝も相対的に少ないので、そのほとんどは除染の対象とはなっていない。用材生産は、汚染状況を測定しつつ行われているが、福島県産が大きなシェアを占めていたしいたけ原木の場合は基準値が厳しく、県内の広い範囲で利用が停止している。

福島県では森林で働く人たちの被曝をどう軽減するか？山の恵みである、山菜や野生きのこ、そして野生動物の利用をどう再開するか？といった問題がある。さらに、林業の生産構造が柱材としての用材生産から、集成材、そして発電や熱利用のためのバイオマス生産へと大きく変化するなかで、森林の持続可能な利用に配慮しつつ、産業としての拡大が期待されている。

今後も丁寧な測定に基づく利用再開を進めるとともに、森林全体の山の恵みの利用について、現場に即した研究を展開していく予定である。これからも、県内の森林・林業関係者の方々のご支援をいただき、研究開発および人材養成機関として役割を果たしていきたい。

新春特集

第43回福島県林業祭で表彰された方が新年の抱負を語る

苗木づくりに想う

会津美里町　福田三郎

私は、二二歳からスギ苗づくりを始めて今日に至っています。

苗木の生産に携わりはじめた約四〇年前は公社造林が最盛期で、苗木の出荷先の中心を占めておりました。個人による造林も盛んで、県内外から多くの苗木が供給されていました。

その当時は、福島県農林種苗農業協同組合の会津支部には二〇戸の生産農家がおりました。私も含め後継者が数名おり、そのメンバーを集め「杉の子会」という後継者の会をつくり、若手の生産技術の向上を目的に、先進地研修、挿し木技術の講習会から実践、生産費調査など各苗畑を回りながら相互に技術を磨いてきました。

その後、「杉の子会」も卒業し、会津支部の正式メンバーとなりましたが、引き続き少花粉スギの生産に向けたマイクロカッティング技術の研修会や組合員の実践結果の報告会への参加、林業コンクール出品を通じ、生産技術の向上を目指し、日々研鑽を重ねてまいりました。

近年、苗木生産者の後継者不足による裸苗生産の低迷、林業担い手の高齢化などが課題となっています。それらに対応するため、三～四年前から新たにコンテナ苗の生産を始めました。コンテナ苗生産技術の確立に向けては、未だ手探りの状態にはありますが、裸苗と比べ植付けから出荷までの生産労力を大幅に削減することができ、苗木生産継続への明るい方向が見えてきたところです。

平成三〇年度福島県林業コンクール苗畑部門における県知事賞受賞を励みに、今後も、後継者とともに良質で安定した苗木の生産に努め、福島県の森林林業の発展の一助となるよう努めていきたいと考えております。

コンテナ苗の生産

美しい「湊町」が守られるために

会津若松市立湊小学校

本校は、西の背炙り山、東の猪苗代湖に守られた会津若松市湊町にあります。原・双潟・共和・赤井の四つの小学校が統合し、昨年開校二〇周年目を迎えました。この度の学校関係緑化コンクールにおきましては、学校林等活動の部で県知事賞並びに福島民報社社長賞を、学校環境緑化の部で県森林・林業・緑化協会会長賞をいただきました。

本校では旧原小学校の学校林をそのまま引き継ぎ、毎年四年生が会津森林管理署の方々のご指導と地域の皆様のご協力をいただきながら、間伐・除伐作業等に取り組んでいます。この森林学習は四年生の環境学習のスタートであり、その後の原川、猪苗代湖の湖岸・湖心の生物・水質調査につながるものです。子ども達は、森や山が美しい水を作り、川の流れとなって湖に注いでいること、日本一美しい水質であった猪苗代湖が、ここ数年水質悪化に苦しんでいることを学びます。その対策をしなければという思いが、清掃活動や草花の手入れ、畑作業に取り組む真剣さに繋がっていると感じています。

学び舎は、四季折々の草や樹木の花・果実に包まれ、秋には美しい紅葉の時期を迎えます。本年も子ども達が、温かでいつも支えてくださる地域の皆様と共に、緑豊かな湊小を、自然の美しい湊町を大切にして生きていけるよう、指導を積み重ねていきたいと考えています。

学校林での活動

福島県一のシイタケ生産者を目指して
～「成功する法則」より～

田村市　箭内幸一

「あなたは何ができますか？」と問いかけられたら、私は福島県一の原木シイタケ生産者になりたいと答えます。志から五〇年、自己目標設定に向け歩んでいます。

シイタケ栽培の始まりは、昭和五四年十月二六日からです。体調が弱く、知恵・知識不足から紆余曲折で回り道が多く、人生とは何か悟りたい、また農業で成功するには何が必要かと思い!!「どうせやるなら、福島県一になりたい」と思い、固い決意を持ち、まず一点集中、目標達成を考えました。数年は、模索の栽培でした。その後、ある青年の持って来た講演テープ、ポール・J・マイヤーの「成功する法則」を勉強することができ、感謝しています。テープの中で、「過去と他人と親は変えられないが、他は全部変えられる。」とあり、考え方次第でどうにでもなるという自信と勇気が湧いてきました。

原木シイタケの栽培

ようやく、平成元年に福島県きのこ品評会へ原木シイタケを出品し、農林水産大臣賞を受賞することができました。しかし、平成十八年頃には菌床栽培の技術がよくなり、原木産が見劣り、一長一短はありますが、審査通過が厳しくなりました。そんな矢先、東京電力福島第一原発の事故で生産者は大打撃を受け、原木きのこ生産者が減りました。

いまだに他県からの購入原木で栽培している中で、今回十四回目の農林水産大臣賞を受賞することができました。品質向上はもとより、風評被害に対して県内生産者にエールを送る意味で、原木栽培で入賞できたことは意義深いものがあり、いまだ目標達成の途中なので、今頑張らずにいつ頑張るという気持ちと社会に役立つことを考え、偉く生きるより立派な人間として終身現役で農林水産大臣賞を二〇回受賞して黄綬褒章をと、夢が膨らみ、今から今年の品評会が楽しみです。

○箭内氏の座右の銘…千戴燈懇漸熟（コツコツとやっていれば熟するという意味）

福島県チェーンソー選手権
総合一位を受けて

相馬地方森林組合　但野勝久

昨年の林業祭で開催された福島県チェーンソー選手権に参加しました。エントリー人数は三一名と発表があり、少し緊張したことを覚えています。

競技種目は「合わせ玉伐り」「精密伐り」「玉伐りタイムトライアル」の三種目で日頃のチェーンソー技術を争いました。

写真は、その競技状況です。公式ルールによる採点は、見ていてもおもしろいと思います。

林業の仕事に就いて約十年が経ちます。その間、一生懸命に頑張ってきましたが、まだまだ技術を磨く必要があると思います。また、自分が身につけた技術を若い人に伝えられたらいいなと考えています。

林業の現場は急傾斜で足場が悪く危険な所での仕事と言えます。新年の抱負は、今年も怪我をしないよう、周りをよく見て安全に仕事をすること、そして、仲間と協力して今まで以上に頑張っていきたいと考えています。

合わせ玉伐り

精密玉伐り

玉伐りタイムトライアル

第五五回全国林材業労働災害防止大会in福島

林業・木材製造業労災防止協会　福島県支部

小泉武夫氏の特別講演

大会会場

平子福島支部長挨拶

平成最後となる昨年の十月二四日（水）、二六年ぶりの全国大会が郡山市民文化センターで開催されました。会員並びに関係機関のご協力をいただきながら畠利行福島県副知事、品川萬里郡山市長等の来賓にもご出席を賜り、七五三名と多くの方々が参加する福島らしい大会となりました。

大会は、各種安全衛生用品等の展示に始まり、続くアトラクションは、地元で受け継がれた祭り太鼓を発展させた創作太鼓として郡山市の名物になった「岩代國郡山うねめ太鼓保存会」の皆さんによる太鼓演奏と、福島県のPR活動を通して全国各地で活躍されている「ハーラウ　ラウラーナニ」の皆さんによるフラダンスを披露していただきました。

また式典前の特別講演は東京農業大学名誉教授、小泉武夫氏（小野町の酒造家生まれ）がライフワークとしてきた発酵分野の知見を基に、「心と体をつくる食事学」と題してユーモアを交えたわかりやすい内容で話していただきました。

岩代國郡山うねめ太鼓保存会の皆さん

ハーラウ　ラウラーナニの皆さん

式典は、平子作麿福島県支部長の歓迎の挨拶で始まり、労働災害防止活動に積極的に取り組まれている事業体・個人の表彰式において、県内からは、郡山市森林組合、渡邉守康氏（有）カネマタ代表取締役）、生田目一二氏（有）井出林業代表取締役）が受賞されました。

次の「大会宣言（案）」では、（有）ウッド福生の菊池優子氏が安全行動を最重点とする誓いを力強く宣言し、満場の拍手で採択されました。

続いて、県内の労働災害防止活動紹介事例として全国屈指の製材工場、塙町にある協和木材株式会社が社内一丸となって取り組んでいる「我が社の安全衛生」の状況を安全衛生担当の金澤　忠氏から発表を行い、次期開催となる佐賀県支部よりご挨拶をいただき、大会を終えました。

その後、郡山ビューホテルアネックス「花勝見」を交流の場として、全国新酒鑑評会で六年連続金賞を受賞した全酒蔵の地酒と郡山市推奨の農産物を使った料理を全国の方々に味わっていただき、時間の許す限りの懇談で、福島の復興・食の安全をアピールしました。

菊池優子氏による大会宣言

金澤忠氏の事例発表

第三回福島県きのこ料理コンクールを開催

公益社団法人　福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

平成三〇年十一月二三日（金・祝日）、郡山市安積総合学習センターで第三回福島県きのこ料理コンクール本審査を開催しました。同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその利活用の普及啓発により、県民の健康増進に寄与するとともに、きのこ産業の振興を図るために開催しているものです。今回からは最優秀賞が県知事賞になるなど、更に魅力あるコンクールとなりました。

表彰式後の記念撮影

本審査調理会場

応募総数は、昨年の一六五点を上回る二四六点（うち高校生一七六点、大学生五六点）となりました。当協会で委嘱した五名の審査員により、十月三一日に書類による一次審査を、十一月二三日には調理の実技を伴う本審査を行い、七名の方の入賞が決定しました。今回の本審査出場作品は、冷凍保存したきのこを使用して調理したり、郷土料理と併せた料理を考案するなど、個性的な作品が多いように感じました。次回のコンクールでも、より多くの皆様にご参加いただけるように、更なる改善を図ってまいります。

なお、県知事賞を受賞した飯村菜月さんと井上あすかさんは、福島県代表として平成三一年三月十四日に東京都内で開催される第三二回きのこ料理コンクール全国大会への出場を推薦いたします。

飯村菜月さん
県知事賞受賞作品
「モチモチ　かぐや姫
　きのこ　うま味　まんじゅう！」

井上あすかさん
県知事賞受賞作品
「きのこたっぷりさんまのけんちん蒸し
　～いか人参あんかけ～」

受賞者一覧

	作　品　名	氏　名	職　業
県知事賞	モチモチ　かぐや姫　きのこ　うま味　まんじゅう！	飯村　菜月	郡山女子大学短期大学部１年
県知事賞	きのこたっぷりさんまのけんちん蒸し～いか人参あんかけ～	井上あすか	郡山女子大学１年
優 秀 賞	きのことさつまいものアヒージョ～福島の秋みいつけた～	菊地　萌果	郡山女子大学短期大学部１年
特 別 賞	きのこと野菜たっぷりかつおの南蛮づけ	寺澤　りの	福島県立相馬農業高等学校１年
奨 励 賞	カクテルサラダ～カリカリなめこを添えて～	静井さとみ	団体職員
奨 励 賞	きのこチーズドッグ	荻野　桜	郡山女子大学附属高等学校１年
奨 励 賞	きのこのバランスタワー	室井つな子	地方公務員

高校生の伐木等業務 特別教育を支援

公益社団法人　福島県森林・林業・緑化協会
林業労働力確保支援センター

講義を受ける生徒達

◎はじめに

森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手の育成・確保を図るため、平成三〇年十一月十四日(水)から十五日(木)にかけて、福島県立会津農林高等学校において同校森林環境科二年生二一名を対象に伐木等業務の特別教育の実施を支援しました。

◎支援センターの取組紹介

講義が始まる前の若干の時間をいただいて、当支援センターの情報誌を活用し、事業内容の一部を紹介しました。

◎(安全衛生教育)室内

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の講師の皆さんにより、「チェーンソー作業の安全ナビ」のテキストを基に、室内の講義を行いました。

①伐木作業に関する知識

服装や保護具、悪天候時の作業中止の基準、近接作業の禁止、上下作業の禁止、チェーンソーの基本操作、キックバックの防止、伐倒方向の選定、避難場所の選定、伐倒の合図、伐倒の方法、待避、かかり木の処理方法、造材作業の安全な手順など

②チェーンソーに関する知識

チェーンソーの構造、取り扱い等、安全装置の機能、燃料、チェーンオイルについて、チェーンソーの点検では、毎日、毎週、毎月ごとの点検の項目や方法、チェーンソーの故障と整備など

③振動障害及び予防に関する知識

振動障害の原因、症状と予防対策の骨子、振動障害の予防措置、特殊健康診断の受診など

④関係法令等

労働安全衛生法、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則など

◎実技

学校の敷地を実習場所として、三班に分かれて実技を行いました。

最初に、チェーンソーの操作の指導を受けた後、丸太切り（落とし切り・合わせ切り・突込み切りの三種類の切り方）、立木伐倒の受け口切り、追い口切りの操作を生徒全員が行いました。また、ソーチェーンの目立てや毎日点検についても行いました。

◎アンケートの結果から

表のとおりの回答と意見感想をいただき、実技を通して林業への関心が高まった様子がうかがわれました。

◎終わりに

チェーンソー講習は、昨年度から新たに追加されたもので、二年生は昨年刈払機の講習を実施していることや最後にテストがあることなどもあり、熱心に受講され実り多い実習となりました。

ソーチェーンの目立てを指導する講師

丸太輪切りの操作実技

伐倒の操作実技

◆伐木等の特別教育を受けてみて、特に印象に残ったものは？（複数回答可）

□支援センターの取組紹介	２名
□伐木作業に関する知識	６名
□チェーンソーに関する知識	８名
□振動障害の知識	２名
□実技：チェーンソーの操作	17名
□実技：チェーンソーの整備	７名

◆今後、森林･林業関係で仕事をしたいと思ったか。

□はい	13名
□いいえ	８名

◆今後、森林･林業関係でやってほしいことは？（複数回答可）

□現場での作業体験	12名
□林業現場の見学	９名
□製材工場・原木市場の見学	８名
□地元の林業者の講話	５名
□有名林業地の見学	７名
□その他	１名

■意見・感想等

○実際に現場に行って体験したいと思った。
○笑いも交えた素晴らしい説明で、聞いてもおもしろかった。
○チェーンソーについて、よく学び、切り方やかけ声もしることができた。
○初めてチェーンソーを使ってみたが、難しかったけれど楽しかった。

普及指導員通信

会津農林事務所管内における山菜・きのこの安全・安心確保に向けた取組

福島県会津農林事務所
林業普及指導員　長　嶺　裕　介

１　はじめに

当管内では、山菜・きのこ等特用林産物の生産が活発でしたが、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により一部山菜と野生きのこについて出荷制限を余儀なくされ、また、出荷制限のない品目についても、モニタリング検査等の実施が必要となりました。

このため、①山菜・きのこの安全・安心確保に向けた取組、及び②出荷制限品目の制限解除に向けた取組を同時に進めることが課題となっています。

今回は、この課題に対する当事務所の取組について、ご紹介します。

２　取組内容及び成果

⑴　安全・安心の確保に向けた取組

○モニタリング検査の実施

出荷販売を前提としたモニタリング検査と、その結果の速やかな公表が山菜・きのこの安全・安心の確保、生産振興に結びついていると考えています。市町村の協力を得ながら、各種説明会を通じた集団指導や生産者への個別指導を行い、出荷前に検査を行うよう、周知徹底を図っています。

シーズンになると毎日大量の検体が集まるため、職員も一丸となり検体調整等の対応を行っています。

○直売所巡回指導の実施

モニタリング検査に加え、出口対策として直売所巡回指導を今年度は第３四半期までで延べ172店舗実施しています。

巡回指導は保健所とも連携して行い、出荷制限品目が販売されないよう、制限状況の位置図等を活用した注意喚起の徹底、また販売可能品目についても、仕入れ伝票等による産地の確認及び市町村名までの表示等について指導を行っています。

職員一丸となった検体調整の様子

⑵　出荷制限解除に向けた取組

当事務所では、地元からの要望等を踏まえ、解除に向けた検査を進めており、これまで４品目で出荷制限が解除されています。

出荷制限解除に向けた国との協議にあたっては、検査データの集積が必要なことから、平成28年度から県委託事業による検体採取等を行っています。また、平成30年度は山菜の時期に野生きのこも含めた一括発注や、事業受注者に対する現地での採取指導を重点的に行ったこと（延べ18日間）などから、より効率的な調査ができ、これまでに比べ検体数を大幅に伸ばすことができました。

山菜・野生きのこモニタリング検査等実績（検体数）

区　分	品　目		検査実績（検体数）		
			H28	H29	H30
出荷販売のためのモニタリング検査	栽培きのこ	資　材	206	171	124
		きのこ	161	166	170
		小計	367	337	294
	山　菜		370	312	315
	野生きのこ		7	16	20
	樹実類		29	27	19
	合　計		773	692	648
出荷制限解除のための検査	山　菜		38	168	309
	野生きのこ		738	637	1,218
	合　計		776	805	1,527
総　計			1,549	1,497	2,175

※Ｈ30は12月14日現在までの状況。

３　今後の課題

山菜・きのこの安全・安心の確保に向けては、現在の取組を継続させることが何より重要です。繰り返し指導していくことで取組内容をより浸透させていきたいと考えています。併せて、出荷制限が解除された品目についても、生産者情報等の的確な把握等出荷管理に向けた取組を進めます。

また、出荷制限解除に向けても、これまでの膨大な検査結果の分析とその結果を踏まえ解除に向けた協議、確実な検体数の確保等により、一層取組を加速させていきます。

特に出荷制限解除に向けた取組については、道のりは険しいですが、地域と合意形成を図りながら一歩一歩着実に前に進めていきたいと考えています。

森林管理署メモ

相双地域の森林事務所の再開について

～CLTを使用した事務所を新築し、避難指示解除区域の国有林で本格的に森林整備を再開します～

関東森林管理局
磐城森林管理署

磐城森林管理署では、昨年度、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難指示が解除された区域内の国有林における森林整備を一部再開し、本年度からは本格的な森林整備を再開しております。

本年度の相双地域の避難指示が解除された区域の国有林における事業量は、昨年度に比べて大幅に増加する見込みです。（間伐面積：約一二〇倍、除伐面積：約二・八倍、素材生産量（丸太の生産量）：約六倍）

また、森林計画区ごとに五年間の事業量等を定める磐城森林計画区の国有林の「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」では、平成三〇年度から五年間の伐採量は、前計画の一・五倍を計画しています。

相双地域にある七つの森林事務所は、原発事故を受けて閉鎖していましたが、平成二九年度までに二つの森林事務所（原町、川内）、昨年四月に二つの森林事務所（富岡、葛尾）、十一月までに三つの森林事務所（木戸、草野、浪江）を再開しました。これにより、閉鎖していた森林事務所を全て再開しております。

木戸森林事務所は、壁及び天井にＣＬＴを使用した庁舎に新築しました。草野森林事務所は、ＣＬＴを壁及び床に使用して既存庁舎を修繕しました。

本格的に再開した森林整備等の実施を通じて、福島県の森林・林業・木材産業の振興に貢献できるよう全力で取り組んでまいります。

CLTを使用した森林事務所

外観（木戸森林事務所）

CLT を使った内装（木戸森林事務所）

草野森林事務所

福島県相双地域の森林事務所の再開状況

森林事務所	再開の時期	所　在　地	庁　　舎
原　町	平成23年８月１日	南相馬市原町区萱浜字巣掛場45－１	平成２年度築
川　内	平成28年４月１日	川内村下川内字石崎31－５	平成27年度築
富　岡	平成30年４月１日	富岡町大字小浜字大膳町116	福島富岡区検察庁の一室を借上げ
葛　尾	平成30年４月１日	葛尾村大字落合字西ノ内７－１	平成21年度築
木　戸	平成30年11月15日	楢葉町大字山田岡字石空８	新築 （CLTパネルを壁、天井に使用）
草　野	平成30年10月４日	飯舘村草野字目玉打１	既存庁舎を修繕 （CLTパネルを壁、床に使用）
浪　江	平成30年11月30日	浪江町大字加倉字下加倉40－４	既存庁舎を修繕（当面は一部利用）

公社だより

分収造林推進連絡会議現地検討会の開催について

ふくしま緑の森づくり公社、森林整備センター、福島県の三者は、分収造林事業の円滑な推進を図るために、平成二七年八月に協定を締結し、連絡会議の開催、会津地域での臨時木材市への共同出材、現地検討会などを行っています。

今年度は、当公社が事務局を務めており、平成三〇年十月三一日福島市庭坂地内において三者による「列状間伐」の現地検討会を開催しました。

列状間伐実施中「中ノ堂」地区

列状間伐は、作業効率が高く森林整備の低コスト化に繋がることから、県内においても国有林や森林整備センターを中心に実施箇所が拡がっていますが、従来の定性間伐に比べるとまだ一般的ではなく、現場では手探りで実施している状況にあります。

今回は、列状間伐を実施中の公社造林地「中ノ堂」地区と、過去に列状間伐を実施した森林整備センター「清水原」地区を見比べながら、間伐効果の検証や造林補助事業における樹冠疎密度の関係などの視点から検討を行いました。

実施中の公社造林地は、林齢二三年～三〇年生、五メートル幅伐採一五メートル幅残の間伐率二五パーセントとし、プロセッサーによる造材、フォワーダによる搬出を行っています。

列状間伐実施後「清水原」地区

実施後の森林整備センター造林地は、林齢四九年生、五メートル幅伐採一五メートル残の間伐率二五パーセントで列状間伐を行い、実施から八年～九年が経過しています。

両者は同じ基準で列状間伐を行っていることから、過去に実施した「清水原」地区の樹冠疎密度を調査したところ、調査箇所の樹冠疎密度は一〇分の八・四となっていました。

調査箇所は森林整備センターの事業地であり、造林補助事業とは直接関係はないものの、国の補助基準である「伐採後、樹冠疎密度が一〇分の八以上に回復していること」がほぼ確認できました。（※樹冠疎密度：樹冠投影面積を森林面積で割った値）

このことから、列状間伐の伐採幅が五メートル程度であれば樹冠疎密度は一〇分の八以上に回復する可能性が高いことと、さらに二回目の列状間伐を計画する場合には、樹冠疎密度を考慮すると十数年の間隔を置く必要があることが推測されました。

また天然下種更新により、高木性の広葉樹が一ヘクタール当たり五〇〇本程度生育しており、将来の森林機能の維持に結びつく間伐の効果を確認することができました。

今回の現地検討会を参考に、今後も樹冠疎密度を考慮したうえで、搬出要件等が合致する現場においては、低コスト化に繋がる列状間伐を実施していきたいと考えています。

現地検討状況

木に触れて豊かな心を育む「木育」⑩

木工房ＭＥＧＵＲＯ（柳津町）

林業福島事務局

○はじめに

「木工房ＭＥＧＵＲＯ（以下「木工房」という。）」は、三島町出身の目黒照枝さんが地元産材の良さを子ども達や親御さんに伝えようと平成二二年に設立した木工製品の工房で、平成二七年十二月には柳津町に店舗兼工房が開設されました。

目黒さんが作る木製品は、いつも母親の目線で、一つ一つ手づくりで丁寧に作られており、木のやさしさと手づくりのぬくもりが伝わる製品となっています。

会津桐製ロッキングベンチ

○地元の森林や木材に対する思い

三島町に生まれの目黒さんは、幼少の頃より森林に親しんでいました。大学で地域づくりの勉強をされたのち、岐阜県高山市の「森林たくみ塾（オークヴィレッジ㈱が運営）」で二年間木工や森林環境教育を学ばれました。卒業後は、出身地である三島町にＵターンし、三島町生活工芸館の木工指導員として八年間活躍されました。結婚後も育児のかたわら木工を続けていましたが、地元の森林や木材の良さを一人でも多くの方に知って欲しいとの強い思いから木工房を開設しました。

また、目黒さんは、「桐の栽培育成修了書（平成三〇年一月福島県知事）」や「福島県もりの案内人認定書（平成三〇年三月福島県知事）」の交付を受けており、「会津桐」の生産振興や森林環境教育等の指導にも意欲的に取り組んでいます。

○地元産材を使用した手づくりの木製品

木工房では、母親の目線で子ども達に優しい感触を与えられるものを、目黒さんが一人でデザインし、一つ一つ手づくりで制作する少量生産となっています。木製品は、特に愛着がある地域の特用林産物である「会津桐」を主な材料とし、桐以外木材も全て地元産材を使用しています。

木製品の販売は、主にイベントへの出品や口コミからの注文となっていますが、優しい感触に誘われて多くのリピーターもおいでです。

○イベント等への参画

木工房では、「奥会津やないづ手づくり市」の事務局を務めるなど、柳津町をはじめ各地で開催される各種イベントへ積極的に参画し、地元産材や木製品の良さをＰＲしています。

また、目黒さんは、子ども達の遊びの世界を広げるサポートをする「おもちゃインストラクターの認定（平成二八年四月日本グッド・トイ委員会）」を受けており、木工教室の開催や各種イベントへの木製遊具の出品等を通じて、創造力・発想力豊かな子ども達の成長をサポートしています。

○おわりに

目黒さんを取材して、本当に森林や木材が好きで、心から地元に愛着を持っている方だなぁーとしみじみ実感しました。その愛情を込めて制作された木製品を手に取ることで、目黒さんの熱意が伝わってきます。

読者の皆様も、目黒さんの思いが込められている温かみのある木製品を触れてみてはいかがでしょうか。

店舗兼工房

木工教室の開催

木育イベントへの参画

会津桐製誕生祝（小物入れ）

木材市況

九月の原木市場への入荷状況は、前月比三パーセント減（前年比五パーセント減）の二〇、一一一立方メートルとなっている。

販売量は、前月比七パーセント増（前年比一一パーセント増）の二二、九一一立方メートルとなっている。

十月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（10月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	0	9（8～10）	0
		10～14		並		12（11～12）	0	（0～0）		11（11~11）	0	11（11～12）	△1
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（11～15）	1	11（11～11）	0	13（12～14）	0	12（11～15）	0
				並	ヒノキ	19（16～22）	0	15（15～15）	0	16（16～17）	0	17（15～22）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	0	16（16～17）	0	15（10～17）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～0）		22（20～24）	0	26（20～35）	0
		20～28	3.65	並	スギ	12（12～12）	0	11（10～12）	0	12（12～13）	0	12（10～13）	0
			4.00	並		12（11～12）	0	11（11～11）	0	12（12～13）	0	12（11～13）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		10（9～10）	1	9（7～11）	0
			1.80	並		8（5～10）	0	（0～0）		8（8～8）	0	8（5～10）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		30（29～30）	0	30（29～30）	0
				並	米マツ	（0～0）		34（34～34）	0	29（28～29）	0	30（28～34）	0
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		27（25～28）	0	27（25～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		26（25～27）	0	26（25～27）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	0	（0～0）		6（6～6）	0	6（6～7）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		7（7～7）	1	8（7～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	7（7～7）	0	8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	14（13～14）	0	10（9～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

賑わいを再び

相双農林事務所富岡林業指導所　會田充茂

昨年四月に避難指示が解除され、富岡に富岡林業指導所が戻ってから、二回目の正月を迎えました。

十二月一日現在で八二六人の方が町内に居住しています。昨年四月の段階でさくらモールにしか飲食店はありませんでしたが、カフェ、ラーメン屋と増えてきました。お昼の楽しみが増えました。

広野町、楢葉町、浪江町もそれぞれ飲食店等が新たに開業したりして、賑わいを取り戻しつつあります。

帰還困難区域においては、復興拠点の整備が始まり、各地で除染が実施され、その解除に向けての取組が行われています。三春町に避難している双葉地方森林組合の事務所でも除染が始まっています。復興拠点の整備がされれば、再び富岡の地に戻ってくると聞いております。

来年度には大熊町が役場機能を大熊町に戻す予定になっていますが、その大熊町では、復興で帰還した人々に就業の場を確保しようとおおくま未来合同会社がホンシメジの試験栽培に取り組んでいます。昨年度から二年目の今年度は、三〇キログラムを超える収穫がありました。

双葉郡の復興の状況は、各町村により様々ですが、一つ一つ段階を踏みながら進んでいます。機会がありましたら、双葉郡の各町村を訪れて、その状況を感じていただければと思います。

ホンシメジ発生状況

出荷状況

はなしのひろば

新しい年

昨日の今日というのに、新しい年の始まりである。それも平成時代、最後の年明けとなった。この最後の年明けを何か心に残るものに、と思うが、日常のあたりまえに「年が明けること」に心からの感謝しかない。これが初日の出を拝むことや初詣なら、なおさら歳神様（毎年お正月に各家にやってくる幸せや豊作をもたらす神様）への祈りと感謝の気持ちが高まってくるのだろう。が、見上げた元日の凛とした冬空に、飛行機雲が真っ直ぐに一本伸びている光景も、必ず明るい未来へ続いているかのようで、私は心躍る。一年の新しい日に、どこかで誰かが同じように、この飛行機雲を見上げているに違いないと思うだけで、その誰かと新しい喜びを共有できる気持ちになる。そう思わせるのは、歳神さまが初飛行機雲に幸せを乗せてきてくれたのではないかとさえ感じてしまう。

また、年が改まっただけで、見慣れた冬の庭木たちにも、健気な息吹きを感じる。作家尾崎一雄は「冬ざれの庭にものの芽ひそとあり」と詠んだ。ツバキやウメの蕾はまだまだ小さく固いが、もうひたすら寒明けが待ち遠しい。

「一年の計は元旦にあり。」昨年に良かったことはそのまま継続し、不本意なことや後悔していることは心機一転、真っ新な気持ちで臨みたい。そんな新しい気持ちになれる新年は、やはりめでたいのだ。

しかし、肝心なのは、次の一手。

皆様　新しい時代へ　よき一年を。

（都）

表紙の写真

「林業のプロ」

第15回ふくしま森林・林業写真コンクール特別賞（県林業会館理事長賞）
受賞者　近藤広章さん（白河市）
撮影場所：古殿町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

第51回花いっぱいコンクール　受賞者決定

花を愛する心と豊かな情操をはぐくみ“郷土を花と緑で飾ろう”の趣旨のもと、健康で明るい「福島県花いっぱい県民運動」の一環として実施された「第51回花いっぱいコンクール」の受賞者が決定され、平成30年12月11日(火)に表彰式が行われました。

なお、福島県知事賞及び福島県教育委員会教育長賞を受賞された団体は、表のとおりです。

	県　北	県中・県南	会　津	浜通り
福　島　県 知　事　賞	国見町観月台 文化センター	たんぽぽ会 （郡山市）	喜多方市立 第一小学校	新地町立 駒ヶ嶺小学校
福島県教育委員会教育長賞	新田レディース サークル （福島市）	玉川村立 須釜小学校	青柳地区 花いっぱい運動 （南会津町）	いわき市立 汐見が丘小学校

第33回ふくしま緑の写真コンクール　受賞者決定

緑の大切さを再認識していただくため、「緑の百景」を中心とする豊かな緑を題材に開催しました「第33回ふくしま緑の写真コンクール」の受賞者が決定され、平成30年12月８日(土)に表彰式が行われました。

なお、特選及び金賞の受賞者は、表のとおりです。

賞	氏　名	住　所	テーマ
特選	涌井　礼子	福島市	大きくなぁれ
金賞	齋藤　俊典	福島市	風
	涌井　弘亘	福島市	落葉高木
	門林泰志郎	いわき市	みどりのエネルギー 心も満タン
	吉田　浩子	いわき市	新緑のステージ
	毛利　周一	伊達市	池の中の紅葉

特選「大きくなぁれ」

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ **GP-35B グラップルプロセッサ**

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載
・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能

新開発のスタッドローラ(オプション)
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
www.iwafuji.co.jp

（北関東支店） 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（支　　店） 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島　一月号　通巻第六五三号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十一年一月一日発行（毎月一回一日発行）
監修　福島県農林水産部
編集発行人　水戸　典明
発行所　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号　県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional
BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional
GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100
破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1